

日本の医療とホームヘルスケアの可能性

医療技術の進歩により日本は世界一の長寿国となっている。一方で少子高齢化の進展に伴う国民医療費の増大や診療サービスの地域間格差などといった問題が顕著となっている。そういった中で、在宅医療が問題を打開する手段として注目を集めている。このほど都内で開催され

た日経産業新聞フォーラム「日本の医療とホームヘルスケアの可能性」(特別協賛=フィリップス エレクトロニクス ジャパン、後援=厚生労働省、オランダ王国大使館)では、今後の日本医療の課題やホームヘルスケアの重要性などについて、各分野の識者が活発に意見を交わした。



特別医療法人財団重仙会 理事長 神野 正博
厚生労働省 医政局 経済課長 木下 好本
フィリップス エレクトロニクス ジャパン 代表取締役社長 アナウンサー 好本 恵氏
コーディネーター 日本経済新聞社 編集委員 上條 誠二氏

「一人ひとりに密着した医療へ、在宅医療の未来を探る」

特別医療法人財団重仙会理事長 神野 正博氏
厚生労働省医政局経済課長 木下 好本氏
フィリップスエレクトロニクスジャパン代表取締役社長 上條 誠二氏

木下氏 三つは高齢者の在宅医療です。胃に直接栄養を補給しては健康状態は結局、再入院する可能性も高まっています。三つは高齢者の在宅医療です。胃に直接栄養を補給しては健康状態は結局、再入院する可能性も高まっています。

上條 産・官・民の知恵を集めて、まずは経済的に成り立つ仕組みを作ることが重要です。その際、医療費をコストとして考えるのではなく、高齢社会における新しい豊かさを作り出すための「投資」として考えることが必要ではないでしょうか。

「一人ひとりに密着した医療へ、在宅医療の未来を探る」

厚生労働省は現在、在宅医療の中心となる診療所などを指定し、地域の医師が活躍できるような環境づくりに力を入れています。

神野氏 入院先の病院でなくなったのですが、最後まで家に帰りたいと言っています。本人が希望すれば自宅でもヘルスケアが非常に重要になります。

神野氏 入院先の病院でなくなったのですが、最後まで家に帰りたいと言っています。

神野氏 患者の毎日の血圧や血糖値、脈拍、心電図を自動的に測定し、病院に送信。医師は、画面で投薬の方法や生活のアドバイスをします。自宅での日常生活を送りながら予防や日常の管理ができるシステムです。

神野氏 医療と介護はコストではなく、雇用を生み出す地域密着型のサービス産業です。高齢化が進む中、病院だけでなく、行政や企業も巻き込んでホームヘルスケアに取り組まなければ、地域そのものが崩壊してしまうのではないかと危惧しています。

明日の日本医療を考える

世界保健機関(WHO)や経済協力開発機構(OECD)などが行っている医療制度の国際比較によると、日本は上位にランクインされています。その理由として、国内総生産(GDP)に対して相対的に低い医療費で医療のフリーアクセス、皆保険、世界最長寿などを実現していることが挙げられます。しかし、現在、急激に進む高齢化や医師不足、医療費の上昇などさまざまな問題が指摘されています。

患者のニーズに即した包括的な医療体制構築へ

アを専門とする家庭医療がありませんでした。私も、〇〇一年より、専門医としての家庭医を育てるレジデント制度を推進してきました。日本型メディカルホスピタルの現実に取り組んでいます。

これからは患者を中心とした心の通った医療がますます重要になってきます。当センターでもさまざまな活動を通じて、患者にとって納得のいく分かりやすい医療を、これからも目指していきます。

世界における高齢化と医療について

フィリップスデザイン イノベーションディレクター ミリ・ドウカンポ・ラーマ氏

近い将来、増加する慢性疾患の患者に医療の対応が追いつかなくなる恐れがあり、日ごろのヘルスケアへの取り組みが求められています。フィリップスは医療分野に長年力を注いでおり、患者を第一に考えたヘルスケアの実現を

ついに「心疾患マネジメント」のシステムが完成しました。これは、心拍数や血圧、血糖値を自動測定する軽量な装置を心疾患患者が着用し、測定データは、モニタリング機能の付いたスマートフォンで病院へ送られ、医師により管理されます。患者に異常が発生した場合には、訓練を受けたオペレーターがすぐに対応し、状況に応じて救急車の手配などを行う体制ができています。